

(別紙様式36-1)

1級火薬庫「保安検査」事前調査票

作成者職・氏名 _____

連絡先電話番号 _____

事業所名				代表者職・氏名			
事業所所在地							
電話番号				ファックス番号			
取扱保安 責任者	資格	正(甲・乙)	副(甲・乙)	代理(甲・乙)			
	氏名						
1級火薬類の所在地							
1級火薬庫	許可火薬類の種類	許可貯蔵量kg	定期自主検査実施日 年度 第1回 年 月 日 第2回 年 月 日				
号棟							
号棟							
号棟							
号棟							
第1種保安物件名	第2種保安物件名	第3種保安物件名	第4種保安物件名				
法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル				
申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル				
実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル				
検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果			
位置	規則24条1号	湿地を避けた位置とする。	地盤の湿気の状態を確認すること。	適・否			
構造	同24条2号	平屋建の鉄筋コンクリート造、煉瓦造、コンクリートブロック造、石造で基礎は堅牢高位とし排水に留意する。	ヒビ割れ、風化等がないこと。基礎が露出していないこと。排水溝の詰まりがないこと。	適・否			
壁厚	同24条3号	鉄筋コンクリート造の場合は15センチ以上、煉瓦造、コンクリートブロック造、石造の場合は20センチ以上。	実測する。	適・否			
扉	同24条4号	火薬庫の入口の扉は、外扉が耐火扉である二重扉とし、盗難を防止するための措置を講ずること。	外扉は厚さ3mm以上の鉄板とすること。 内扉、外扉及び外扉の錠は、日本産業規格K4832(2018)火薬類の盗難防止設備の要求事項の各基準に適合すること。 内扉及び外扉はそれぞれ錠を使用すること。	適・否			
窓	同24条5号	窓を設ける場合は、地上から1.7メートルの高さ、直径1センチ以上の鉄棒を10センチ以下間隔ではめ込む。内方	窓ガラス、防火扉の破損がないこと。	適・否			

		に不透明のガラス引戸、外方に外から容易に開かない防火扉とする。		
床 高 通 気 孔	同 2 4 条 6 号	床高は地盤面から 30 センチメートル以上。床に 2 個以上の通気孔を設け、金網を張る。(幅 20 センチメートル以上の通気孔には約 5 センチメートル間隔で直径 1 センチメートル以上の鉄棒をはめ込む。)	床面の破損がないこと。 通気孔の金網破損がないこと。 通気孔を設けない場合は、床と地盤面の間に、防湿フィルムを敷設するか、床面に防湿塗料を塗布すること。	適・否
床 面	同 2 4 条 7 号	床面は板張りで鉄類を表さない。	床板の割れ、釘の浮きがないこと。	適・否
換 気 孔	同 2 4 条 8 号	金網張り、火薬庫の大きさにより天井に 1 個以上、両つまに各 1 個付ける。	換気孔の金網の破損がないこと。	適・否
暖 房	同 2 4 条 9 号	暖房設備は、火薬類の爆発又は発火を防止するための措置を講ずるとともに、燃焼しやすい物と隔離する。	次のいずれかの基準に適合すること。 ①火薬庫と完全に隔離した熱源で加熱された熱水又は水蒸気による放熱体を火薬庫内に設置する場合、放熱対の側面には、取り外しが可能で掃除ができる構造の適當な覆いを取り付けること。 ②火薬庫と完全に隔離された熱源で加熱された熱風を危険工室内に送り込む場合、吹き出し口の温度は 50 度以下とし、熱源からの熱粉じんが吹き出し口から飛び込むおそれがあるときは、吹き出し口の前面に不燃性板等を設置して熱粉じんの飛び込みを防止すること。 ③火薬類が飛散するおそれがない火薬庫において、エアコンディショナを設置する場合、吹き出し口の温度を摂氏 40 度以下とし、電気配線は火薬庫内に表さないようすること。	該当無し 適・否
照 明	同 2 4 条 1 0 号	照明を設けた場合は防爆式電灯、配線は金属線ビ工事、金属管工事、がい装ケーブル工事とする。自動遮断器、開閉器は庫外に設置する。	防爆式電灯であること。 スイッチ等は庫外にあること。	該当無し 適・否
屋 根	同 2 4 条 1 1 号	木造、屋根の外面は金属板・スレート板・瓦等の不燃物とする。	雨といの破損、詰まりがないこと。 雨もりがないこと。	適・否
避雷装置	同 2 4 条 1 2 号	避雷装置を設ける。	平成 27 年経済産業省告示第 145 号の基準に適合していること。	適・否
警戒・消 火 設 備	同 2 4 条 1 4 号	警戒札及び貯水槽の設置、境界に沿って 2 ㍍以上の大空地を設け、境界に有刺鉄線	警戒札(「煙火火薬庫」「火気厳禁」等)は明確であること。空地に燃えやすいものが堆積していないこと。十分な消防用水と消火	適・否

		等を張る。	用器具は整然と用意されていること。	
盜難防止措置	同24条15号	天井裏又は屋根には、盜難を防止するための措置を講ずること。	日本産業規格 K4832(2018)火薬類の盜難防止設備の要求事項3.3 火薬庫の天井裏又は屋根に張る金網の基準に適合する金網を設置すること。	適・否
警鳴装置	同24条16号	警鳴装置を設置する。(見張所等を設置し、見張人等を常時配置した場合はこの限りでない。)	日本産業規格 K4832(2018)火薬類の盜難防止設備の要求事項3.4 火薬庫及び庫外貯蔵所に用いる自動警報装置の基準に適合する警鳴装置を設置すること。	適・否

◆ 土堤

検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
位置	同31条1号	土堤の内壁の堤脚から棟の外壁まで1倍以上の距離においてできるだけ接近して構築する。	堤脚と外壁との間の距離を確認すること。	適・否
出入口	同31条2号	切通しによる出入口の場合は、平面図において棟の本屋から外方に引いたすべての直線が土堤の頂上の線上と交さする。	当該工室又は火薬庫等が見通しえ見えないこと。	適・否
	同31条3号	トンネルによる出入口の場合は、平面図において棟の外壁からトンネルの方に引いたすべての直線がトンネルの壁の線と交さする。	当該工室又は火薬庫が見通しえ見えないこと。	適・否
勾配等	同31条4号	土堤は45度以下の勾配とする。(ただし、土堤の内面を補強し崩壊を防止するための措置を講ずる場合にあっては、その内面を九十度より急でない勾配とすることができる。) 高さは煙火火薬庫の場合は軒高(1.5倍未満の場合は1.5倍)、他の火薬庫及び一時置場にあっては屋頂の高さ以上とする。 頂部の厚さは1倍以上とする。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適・否
土留め	同31条5号	土堤は、火薬類の爆発の際、火炎や飛散物が外部へ放出されることを防止し、かつ、軽量の飛散物となるような材料を使用すること。	土留めの腐朽等がないこと。 次の1以上の中の材料を用いたものとすること。 1. 土 2. ソイルセメント 3. ジオテキスタイルで補強した土	適・否

通 路	同 3 1 条 6 号	2棟以上が隣接し、中間土堤を兼用する場合は、この土堤に通路を設けない。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適 ・ 否
土 堤 面	同 3 1 条 7 号	土堤面を芝草類又はセメントモルタル又は布製型枠（セメントモルタルを使用するものに限る）で被覆する。	芝草が剥げていないこと。 枯草がないこと。 セメントモルタル等が剥がれていないこと	適 ・ 否